

AQ 認証に新規薬剤を指定しました。

AQ 認証では、高耐久性機械プレカット部材 3、保存処理材 2、防腐・防蟻処理構造用集成材 4 の品質性能評価基準に新規薬剤を追加しました。

この指定に伴い新規薬剤の吸収量の判定基準を下記のとおり決めました。

指定薬剤

薬 剤 名	有効成分	AQ表示	保存協会登録番号
アゾール・非エステルピレスロイド化合物系	A Z・E	A Z E	A - 5 3 0 7
第4級アンモニウム・ネオニコチノイド化合物系	<u>DDAC</u> ・ <u>T</u>	<u>TAAC</u>	<u>A - 5 4 1 9</u>

吸収量判定基準

薬 剤 名	有効成分	吸収量 (Kg/m ³)		
		1種	2種	3種
アゾール・非エステルピレスロイド化合物系	A Z		0.08 以上	0.04 以上
	E		0.11 以上	0.06 以上
第4級アンモニウム・ネオニコチノイド化合物系	<u>DDAC</u>	<u>5.0 以上</u>	<u>2.5 以上</u>	<u>1.3 以上</u>
	<u>T</u>	<u>0.006 以上</u>	<u>0.003 以上</u>	<u>0.002 以上</u>

注：1種は、保存処理材 2のみである。

浸潤度及び吸収量の測定方法は別紙のとおりです。

[別 紙]

浸潤度及び吸収量の測定方法

(1) 浸潤度の測定

ブロムフェノールブルー 0.2g をアセトンに溶解して 100ml としたものを塗布し、又は噴霧することにより、約 5 分後に、浸潤部は青色に、未浸潤部は黄色に呈色する。

(2) 吸収量の測定

DDAC については、既存の分析方法による。
チアメトキサムについては、下記による。

チアメトキサムの分析

A 試料の採取

定量用試料から 20 cm³ 相当分を取り、試料とする。

B 試験体作成手順

定量用試料を栓付きガラス瓶に入れ、200ml のアセトンを加えて、3 時間超音波震盪させ、その後 2 1 時間放置して抽出する。抽出液は、濾紙を敷いた桐山ロートで吸引濾過し濾液を得る。残渣をアセトンで更に洗い、その洗液を濾液に併せ、アセトン 300ml に定容する。

この抽出液の 40ml を 100ml 容ナスフラスコに採り、ロータリーエバポレーター（水溶 40 以下）でアセトンが完全に留去するまで濃縮する。

あらかじめ酢酸エチル 5ml を流してコンデシュニングしておいたアルミナ N ミニカラム（ジーエルサイエンス(株)製 InertSep AL-N 500mg/6ml）上に先の濃縮残渣を酢酸エチル 5ml 2 回で溶解し洗い移し、流出液を捨てる。次に酢酸エチル：アセトン（3：7v/v）30ml を用いて溶出し、溶出液を容ナスフラスコに集める。これをロータリーエバポレーター（水溶 40 以下）で溶媒が完全に留去するまで濃縮する。

最後に残渣をアセトニトリル 10ml に溶解し、これを分析用試験体とする。

C HPLC 分析条件

カラム：STR ODS-11 カラム（I.D. 4.6 mm × L 150 mm）

移動相：アセトニトリル：水 = 25：75

移動相流速：1.0ml/min.

カラム温度：40

測定波長：252nm

注入量：10 μl

D 吸収量計算方法

吸収量は次式によって算出し、小数点以下第 4 位を四捨五入する。

$$\text{チアメトキサム吸収量 (Kg/m}^3\text{)} = V_{EV} \times V_{CV} \times C / V_{TV} \times W_{OP} \times 10^3$$

C : 検量線より算出された分析用試験体のチアメトキサム濃度 (PPm)

V_{EV} : 抽出時メスアップ量 (ml)

V_{TV} : 抽出液採取量 (ml)

V_{CV} : 分析用試験体の定容量 (ml)

W_{OP} : 採取したペンタキュア OP 処理材の体積 (cm³)